

せんだいスクール・オブ・デザイン

実施予定期間：平成 22 年度～平成 26 年度

総括責任者：里見 進（東北大学 総長）

I. 概要

この取り組みは東北大学と仙台市が連携し、地域の課題にもとづくプロジェクト駆動型のデザイン教育を通じて、多規範適応型のデザイン・マネジメント能力を身に付けたクリエイタを養成し、クリエイティブ産業による地域経済の活性化を図るものである。対象は、建築設計、プロダクト、グラフィック、映像、音楽、ICT システムなどのクリエイタ、独立系エンジニア、およびそれをめざす学生である。

1. 地域の現状と地域再生に向けた取組状況

a. 地域の現状と課題

地域における社会的・経済的ニーズ（新産業の創出、地域の活性化等）や課題：仙台市は、付加価値の高いクリエイティブ産業の集積・活用をめざしている。仙台市は、統計的には一定規模でクリエイティブ産業の集積があるのだが、地域の産業との関連が弱く、創造都市仙台をブランド化できていない。また多数の大学が立地し学都仙台を自認するが、その雇用先がなく人材をみすみす流出させている。

b. 地域再生に向けた取組実績と今後の方向性

(1) 提案機関における人材養成の実績

東北大学は、明治 40 年の建学以来、我が国の中核的大学のひとつとして、多くの指導的人材を輩出してきた。

(2) 提案機関における研究等のポテンシャルと地元地域への貢献実績・貢献見込

東北大学は十分な研究上のポテンシャルを有している。産学連携推進本部や特定領域研究推進支援センターなど、産学連携関係組織を再整備し、地域の産業との関係を強化している。

本取組の実施の中心となる工学研究科都市・建築学専攻もまた、まちづくりや防災、環境工学などの分野で地域との連携に積極的に取り組んできた。

(3) 自治体における地域再生の取組と今後の方向性

仙台市は、平成 19 年に産官学連携の産業支援組織「仙台クリエイティブ・クラスター・コンソーシアム」（以下 SC3）を発足し、クリエイティブプロジェクトへの支援、人的ネットワークの形成、情報発信、プロデューサによる新規事業創出などを行なって同産業の誘致・集積に努めている。これらの結果、様々なプロジェクトが地元のクリエイタによって相次いで実施されている。

(4) 地域の企業等による地域再生の取組と今後の方向性

地域に根ざしたクリエイティブ産業との連携によって、地域の産業が、新たな活力を得ようとする動きは様々な業種に芽生えつつあり、地域のクリエイティブ産業との協働による地域再生への期待は高まっている。

たとえば、日本最大の卸業流通団地であり老舗卸業 280 社からなる仙台卸商センター（仙台市若林区）は、開設以

来 40 年にわたって流通業のみに特化してきたが、産業構造の変化等をうけて、より開かれた多機能の街をめざしたまちづくりに取り組み、クリエイティブな人材と協働することで、「情報業としての卸業」を強化させる共同事業を展開している。

2. 科学技術を活用した地域再生人材創出構想の内容

a. 人材養成の目的

(1) 養成の対象者、養成すべき人材像

この取組では、地域に隠れた価値を新たな角度から発掘し、集積するクリエイティブ・クラスタとの共同プロジェクトを通じて、その価値を育て、地域の活性化を図りうるコラボレーティブなクリエイタを養成する。

養成コースには、基礎コースと発展コースとを設定し、基礎コースでは地域と協働してプロジェクトの実行スキルを習得したクリエイタと、現実的な課題を研究テーマとし高度な学術を活用した提案能力をもった修士を養成する。発展コースでは、基礎コース修了者に再度熟達訓練の機会を与えることで、自ら地域の課題を発掘しプロジェクトを立ち上げる地域プロデューサおよび、同様に実践的なプロジェクトのマネジメントと高度な学術を接続する能力をもった博士を養成する。

(2) 目標養成者数、設定した人数の妥当性と根拠

基礎コース	クリエイタ	10名/年	大学院生	10名/年
発展コース	クリエイタ	5名/年	大学院生	2名/年

東北大学と仙台市との協働の実績から、こうしたプロジェクトは年 5 件程度の実施が期待できる。また、前述の SC3 の個人会員数や、都市・建築学専攻においてプロジェクト系の修士研究を選択する学生数の実績などから、各段階における目標人数を設定した。

(3) 養成修了者の活躍の場、地域再生への具体的な貢献

養成された人材は、仙台およびその周辺地域において、新産業としてのクリエイティブ・クラスタを構成し、地域の産業と連携した各種コラボレーションプロジェクトのハブとして活躍し、「学都仙台」から「創造都市仙台」への社会循環を強化する。

b. 人材養成の手法

(1) 養成手段及び目標とする人材像

仙台市と東北大学とが連携し、内外から具体的な地域の課題を発掘し、柔軟なクリエイティビティを持ち込むプロジェクトをたちあげ、業務経験を持つクリエイタと学術的知識をもった大学院生を混成チームとしてコミットさせ、プロジェクト・ベースド・ラーニングを通じて、2. a. (1) の目標を満たす人材を養成するプロジェクト駆動型デザイン教育を実施する。

(2) 人材養成業務の従事者

本取組の地域プロジェクトは、デザイン教育に普遍的な「スタジオ方式」の課題に相当するものとなる。豊富な実務経験、研究実績をもった専任教員および実務家専任教員がスタジオマスターとなり、研究員とともにプロジェクトを推進する。

(3) 人材養成業務の実施内容

(a) プロジェクト

本取組の中心となるのは、地域の課題を解決するために多規範のデザイン学を投入しうる実践的なプロジェクトである。具体的な地域プロジェクトへの参画を通じて、高度なコミュニケーション技術を含むデザインマネジメントを学び、領域横断的で多規範に対応する柔軟な能力を身に付ける。

(b) ワークショップ

プロジェクトと並行して多彩なテーマでワークショップを行なう。講師を内外から招くとともに、自ら出かけていくトラベリング・ワークショップやクリエイタを招聘したクリエイタ・イン・レジデンスも実施する。異文化と直面して行なうトラベリングワークショップは特に重要である。

(c) 活動拠点

こうした活動の場として、平成 27 年に開通予定の仙台市営地下鉄東西線沿線に位置する、東北大学青葉山キャンパス活動拠点および市街地活動拠点を整備する。

(d) 情報共有

これらの成果は、関係者へのプレゼンテーションののち、シンポジウムや展覧会などのイベントを通じて公開され、年に一度記録図書の出版を行い、物理的あるいは電子的に記録、公開される。

(4) 到達レベルの要件とその判断方法

プロジェクトやワークショップの参加状況および成果物によって認定する。

(5) 機関における地域再生人材養成ユニットの位置付け

本取組は、都市・建築学専攻がこれまでも行なってきた、地域や海外を含む他大学と連携したプロジェクト駆動型デザイン教育のプロセスを、学生だけでなく地域のクリエイタに広げるものである。実施期間終了後は、建築デザイン部門を核とする総合的な多規範適応型のデザイン教育プログラムへ移行する。

(6) 提案にいたる準備、調査等の状況

養成対象者は、本学の学生と、公募するクリエイタからなる。クリエイタは、主として「せんだいクリエイティブ・クラスタ・コンソーシアム」のメンバーから募集する。地域の課題の掘り起こしについては、すでに仙台市が委託して活動しているクリエイティブ・プロデューサーに加え、東北大学の産学連携推進本部や、地元の各種経済団体等とも連携して実施する。

(7) 設備備品費や人件費等、主要な経費について

拠点施設の実験環境は原則としてリース（借損料）で行なう。国内旅費はプロジェクトの発掘と調査のために使用する。海外旅費は、主にトラベリング・ワークショップ実施のために用いる。

c. 実施期間終了後の取組

(1) 取組の継続性を確保し得る体制となっているか。

プロジェクト駆動型デザイン教育は、新専攻移行後も、自治体および地域の企業との連携を継続して、学生とクリエイタの協働によるプログラムを実施する。

(2) 機関の長のコミットメント及び終了後に自立して運営

することを想定した資金計画等の構想
地域の課題にかかわるプロジェクト等については、原則と

してその当事者から予算を獲得して経費をまかなう。

3. 自治体との連携・地域再生の観点

a. 自治体との連携の具体的な内容

仙台市は、プロジェクトの主題となりうる地域の課題を発掘して調整し、実施可能なプロジェクトの枠組みを構築するとともに、本取組に参画しうるクリエイタの募集、養成後の活動支援を行なう。

b. 地域再生の取組等との関連性

本取組は仙台市の地域再生計画（申請予定）「クリエイティブ・クラスタを形成する地域活性化を担うクリエイター養成プログラム」において実施される、「地域の諸課題に対するソリューションとしてのプロジェクト」にあたる。

c. 地域としての個性・特色及び地域のニーズの内容

仙台市には、クリエイティブ産業の集積が一定程度進んでおり、さらなる育成・強化をはかる産業振興策として、クリエイティブな人々を惹きつける魅力ある地域の形成、継続的な学術的専門的学習の機会の提供が必要である。また、上記と関連して、クリエイティブ産業と、他産業との連携による地域産業の高付加価値化を促進することなど、まちづくり全般と連携した産業振興、産業集積形成の取組が必要である。

d. 地元の企業等からの協力の内容

地域の企業から、本取組の中心となるプロジェクトの題材の提供を受ける。企業活動に関係して、建築やアーバンデザインによる環境整備、プロダクトデザイン、グラフィックデザインによる商品開発、映像や音楽による情報発信などを統合した多規範適応型のプロジェクトを推進することで、プロジェクトに参加するクリエイタや学生に実践的な学習機会がもたらす。

e. 成果として見込まれる地域再生への貢献度、期待される波及効果

本取組の養成者が、地域に定着することにより、彼らが従事するクリエイティブ産業のレベルが引き上げられ、その集積価値が増大する。またクリエイティブ産業との連携によって成果をあげる企業が増えることで、地域の活性化がはかられ、学都仙台、創造都市仙台のイメージが定着され、地域住民の誇り（シビックプライド）を高めることができる。

4. 3年目における具体的な目標

15 件のプロジェクトに着手し、基礎コース 30 名のクリエイタ、50 名の大学院生、発展コース 21 名を養成する。ワークショップを年 6 回計 18 回開催する。それらの成果をシンポジウムと出版等によって公表する。

5. 実施期間終了時における具体的な目標

25 件のプロジェクトに着手し、延べ基礎コース 50 名のクリエイタ、50 名の大学院生、発展コース 35 名を養成する。ワークショップを年 6 回計 30 回開催する。それらの成果をシンポジウムと出版等によって公表する。

6. 実施期間終了後の取組

実施期間終了後は、建築デザイン部門を核とする総合的な多規範適応型デザイン学専攻（仮称）へ移行し、社会人教育にも門戸を開放した総合的なデザイン・スクールとし

て展開する。また、継続的に業としてプロジェクト・マネジメントのコンサルティングを行なう。

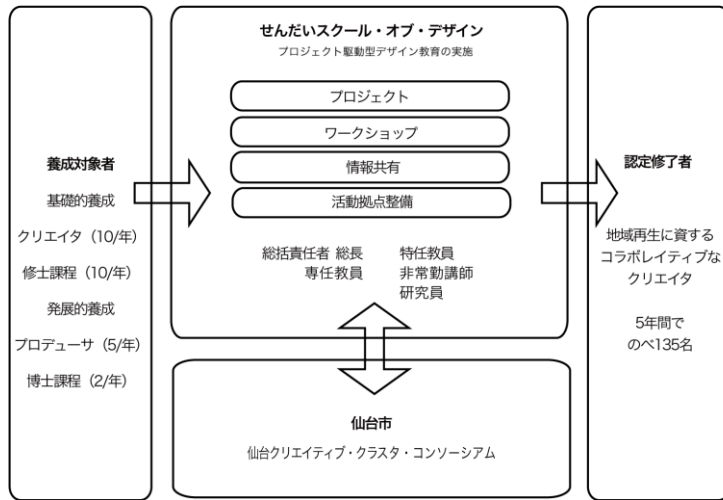
7. 期待される波及効果

本取組に参加してスキルアップした人材が、地域に定着することにより、クリエイティブ産業のレベルが引き上げ

られ、その集積価値が増大する。またクリエイティブ産業との連携によって成果をあげる企業が増えることで、地域の活性化がはかれるとともに、学都仙台、創造都市仙台的イメージが強化定着することで、地域住民の誇り（シビックプライド）を高めることができる。

8. システム改革の実現性とその実施体制

地域再生人材創出拠点の形成「せんだいスクール・オブ・デザイン」実施体制 国立大学法人東北大学



総括責任者のもと、東北大学と仙台市、仙台クリエイティブ・クラスター・コンソーシアム（SC3）とが連携して実施する。

氏名	所属部局・職名	提案課題における役割
◎ 里見 進	東北大学 総長	総括責任者
本江 正茂	東北大学 准教授	実行責任者
五十嵐 太郎	東北大学 教授	運営委員及びスタジオマスター
石田 壽一	東北大学 教授	運営委員及びスタジオマスター
小野田 泰明	東北大学 教授	運営委員及びスタジオマスター
土岐 文乃	東北大学 助教	スタジオマスター
石上 純也	東北大学 特任准教授（客員）	スタジオマスター
平田 晃久	東北大学 特任准教授（客員）	スタジオマスター
錦織 真也	東北大学 助手	スタジオ講師
佐藤 幸輝	仙台市経済局 産業振興課 産業振興係	地域連携における情報提供と相互調整
大上 喜裕	仙台市経済局産業政策部産業振興課	地域連携における情報提供と相互調整
熊谷 和典	仙台市経済局産業政策部産業振興課	SC3 との連携における情報提供と相互調整

9. 各年度の計画と実績

a. 平成 22 年度実績

- ・ 特任教員招聘
石上純也氏及び平田晃久氏を特任准教授と招聘した。
- ・ プロジェクトの発掘
運営委員会及び、仙台市からの提供により、プロジェクトの発掘及び策定を行った。
今後のプロジェクト発掘と協働にむけて、仙台市と包括協定を結んだ。
- ・ プロジェクト成果発表会
平成 23 年 2 月 17 日に成果発表会を開催した。
- ・ 受講生公募
基礎コース（半年）及び発展コース（1 年）について、平成 22 年 10 月 12 日に募集を締め切り、59 名の受験者のうち、54 名（うち社会人 20 名）を選考し合格とした。
基礎コース：23 名（うち社会人 10 名）、
発展コース：31 名（うち社会人 10 名）
- ・ ワークショップ
トラベリングワークショップ
平成 22 年 11 月 27 日～12 月 12 日の期間にオーストラリアにてスタジオ型ワークショップを実施した。
他のワークショップ
1day ワークショップ（interactive レクチャ）を 3 回（11～1 月）実施した。
- ・ 出版
本年度の活動を成果報告書として発行した。
- ・ 修了認定
受講生のうち、41 名を基礎コース修了生として認定した。

b. 平成 23 年度実績

- ・ スタジオ環境整備
東日本大震災による青葉山拠点被災により、拠点を市街地に近い片平キャンパスに移転し、スタジオ環境を整備した。
- ・ プロジェクト発掘
運営委員会及び、仙台市からの提供により、プロジェクトの発掘及び策定を行った。
- ・ プロジェクト成果発表会
春学期の成果発表会を平成 23 年 10 月 1 日、秋学期の成果発表会を平成 24 年 3 月 20 日に開催した。
- ・ 受講生公募
春学期においては、東日本大震災により新規公募は行わず、前年度から継続の発展コース受講生 31 名のみで実施した。秋学期において、基礎コース（半年）及び発展コース（1 年）について、平成 23 年 10 月 7 日に募集を締め切り、49 名の申込者のうち、43 名（うち社会人 20 名）を選考し合格とした。また、前年度の基礎コース修了生による発展コース受講希望が 5 名（うち社会人 1 名）おり、あわせて下記人数を受け入れた。
基礎コース：32 名（うち社会人 16 名）、
発展コース：16 名（うち社会人 5 名）

・ ワークショップ

トラベリングワークショップ

平成 23 年 11 月 19 日～12 月 4 日の期間にフランス領レユニオン島にてスタジオ型ワークショップを実施した。

他のワークショップ

東日本大震災による拠点被災に伴い、特別プログラムとして立案した連続ワークショップ「復興へのリデザイン」を 9 回実施した。

1day ワークショップ（interactive レクチャ）を 3 回（11～1 月）実施した。

・ 新規科目の設立

東日本大震災以降、「アジャイル・リサーチ・プロジェクト（ARP）」を新規科目として設置した。本科目で実施した「災害のデータスケープ」は、国内外の震災復興に関する展覧会等のキービジュアルに使用され、「仙台市津波浸水域リデザインのための基礎調査」にて取りまとめた報告書「Memorial Landscape」は、「復興デザイン国際シンポジウム」にて発表されるとともに、今後においても仙台市における計画検討の参考資料として活用される。

・ 出版、展覧会出展等成果の公開

春学期における活動報告書を発行。
横浜トリエンナーレ連動企画「新・港村」に出展。
グッドデザイン賞受賞に伴い、関連企画である「Area Aid Design Project JDP 東北茨城デザインプロモーション」に出展。その他 14 件の出展、発表を行った。

・ 修了認定

春学期および秋学期を合わせ、61 名を修了認定した。
基礎コース：42 名（うち社会人 24 名）
発展コース：19 名（うち社会人 6 名）

c. 平成 24 年度計画

- ・ プロジェクト発掘
- ・ プロジェクト成果発表会
- ・ 受講生公募
- ・ ワークショップ
トラベリングワークショップ
他のワークショップ
- ・ 出版、展覧会出展等成果の公開
- ・ 修了認定

d. 平成 25 年度計画

- ・ プロジェクト発掘
- ・ プロジェクト成果発表会
- ・ 受講生公募
- ・ ワークショップ
トラベリングワークショップ
他のワークショップ
- ・ 出版、展覧会出展等成果の公開
- ・ 事業継続に向けた施策の検討
- ・ 修了認定

e. 平成 26 年度計画

- ・ プロジェクト発掘
- ・ プロジェクト成果発表会
- ・ 受講生公募
- ・ ワークショップ
 トラベリングワークショップ

他のワークショップ

- ・ 出版, 展覧会出展等成果の公開
- ・ 事業継続に向けた具体的施策の立案と体制の構築
- ・ 修了認定

10. 年次計画

項目	1年度目	2年度目	3年度目	4年度目	5年度目
特任教員招聘	<⑩>				
スタジオ環境整備		<④---⑫>			
プロジェクト発掘	<④-----③>	<④-----③>	<④-----③>	<④-----③>	<④-----③>
プロジェクト成果発表会	<②>	<⑩><②>	<⑧><②>	<⑧><②>	<⑧><②>
クリエイタ、 プロデューサ公募	<⑩-----③>	<④--⑩--③>	<④--⑩--③>	<④--⑩--③>	<④--⑩>
ワークショップ トラベリング	<⑪⑫>	<⑪⑫>	<⑪⑫>	<⑪⑫>	<⑪⑫>
ワークショップ 他のワークショップ	<--年 3 回-->	<--年 6 回-->	<--年 6 回-->	<--年 6 回-->	<--年 6 回-->
出版	<③>	<⑩>	<⑩>	<⑩>	<⑩>
養成目標人数	20	25	30	30	30
<在籍者数>	(41)	(51)	(39)	()	()